

28PA-pm442S

薬物治療に関する犬の飼い主の意識調査～テキストマイニングを用いて～
○小林 圭太¹, 町田 いづみ¹ (明治薬大)

【目的】 ペットは家族の一員として位置し、健康への関心も高まってきている。本研究では、獣医療における薬物治療に関する犬の飼い主の意見をもとに、獣医療の現状を明らかにし、獣医療の中で薬剤師が貢献できる役割を考察する。

【対象と方法】 現在獣医療を受けている犬の主たる飼い主を対象に、インターネットによるアンケート調査を行った。調査期間は2016年5月20日から5月21日で、この調査期間内に412名の回答を得た。

【調査内容と解析方法】 調査内容は犬の飼い主に処方されている治療薬に対する意見を自由記述により収集した。ソフトウェア KH Coder を使い、以下の手順で解析した。1. 必要な設定を行い、共起ネットワークを検出する。2. 外部変数により男女をわけ、必要な設定を行い、共起ネットワークを検出する。3. 1-2 の分析結果から繋がりを見る。

【結果・考察】 「獣医」「量」を中心としたネットワークと「副作用」「説明」「欲しい」を含むネットワークが検出された。しかし、「獣医」と「副作用」—「説明」の間にはネットワークが検出されなかった。飼い主は「副作用」の「説明」を「欲しい」と思っているが、「獣医」の「説明」は飼い主の満足を満たしていないと読み取ることができる。また、男性は「価格」「治療」など現実的な面が、女性は「不安」「信頼」などの感情面が検出され、性差による傾向の違いが見られた。人医療と同様に高度化が進む獣医療にあって、獣医師が1人で診断、治療、薬の管理の全てを行うことは困難である。獣医療の中で薬剤師が、チームの一員として、薬の管理や薬物治療に参加できたならば、獣医療の質の向上に寄与できるのではないかと考える。